

ふるさと教育 取組事例

学校名	海士町立海士中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3	総合的な 学習の時間	「あなたと社会のつながりサーチ」	町内の事業所 (5カ所)
ねらい	事業所との協議のうえ設定したミッションに取り組むことを通じてリアルさの伴う就業体験を積むことで、地域にあるひと・もの・こととのつながりについて実感をもって学ぶとともに、キャリア観を醸成する。		

1 取組の概要

ミッションは「中学生が関わらせてもらうことで、事業所・生徒の双方にとってよい効果が生まれるテーマはないか」ということを担任・事業所・コーディネーターの3者で協議して設定。その達成を目指して半年間の活動に取り組んだ。

活動の前半では、月に1度のペースで事業所を訪問し、業務見学やインタビューを通してその職業への理解を深めたり、ミッションに対する活動を考える素材を集めたりした。中盤では、その素材などをもとにミッションに対する具体案を考案し、事業所の方と協議を重ねた。そして、後半に設定した3日間の事業所体験でそれを実践させていただいた。最後には活動の歩みをプレゼンテーションにまとめ、事業所の方に見ていただいたり、座談会を設定したりして共にふりかえりをおこなった。



2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用

したか。

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

様々な「ひと・もの・こと」のつながりに包まれて地域での暮らしが営めていることを体感し、ふるさとでの暮らしの見方を広げたり深めたりすることを意図して事業所の方に関わっていただいた。そのために、事業所の業務をリアルに体験できるミッションを協議のうえ設定した。



(学力育成の視点から)

設定したミッションに対するフィードバックやアドバイス、コメントなどを定期的に事業所からいただくことで、探究的な学びのサイクルを生徒たちが自覚しながら学びに向かえるようにした。

3 児童・生徒に見られた変容 (どのような力が身に付いたか等)

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

ミッションに対するチャレンジを事業所の方々に受け容れていただけた経験から、ふるさとへの貢献意欲が養われた生徒が多かった。

(学力育成の視点から)

事業所訪問等で得た情報を活動の目的に則って整理して思考を組み立てていく力がついた。また、課題に対して問いを立てることができる生徒が少しずつ出てきた。

4 課題や今後の展望

次年度以降生徒数が増加するため、関わっていただく事業所の数も増えることとなる。それぞれの事業所とのコミュニケーションが学びと活動の質に直結するため、コミュニケーションの質と量を担保できるかが課題である。